



南陽小学校だより 「いい顔 いい声 いい心」 NO15

発行：令和2年12月14日（月）文責：校長 野田 浩司

南陽小学校 HP：<http://www.nagasaki-city.ed.jp/nanyo-e/>



## ○ GIGA スクール構想について

12月8日（火）に育友会の理事評議員会が本校図書室において行われました。皆様お疲れのところを多数御来校いただき、熱心に協議が行われました。

その中で、私は、澤村会長からの依頼を受け「GIGA スクール構想」について簡単にお話をさせていただきました。HPの「校長のつぶやき」コーナーでつぶやいた文章ですが、皆様に知っていただいていた方がよいと考え、学校だよりに再録することにしました。

本構想はもともと1年ほど前に文部科学省が打ち出した構想で、「一人一台端末」についても3年ほどかけて整備をする予定だったものが、コロナ禍を受けて一気に前倒しとなっています。長崎市もしっかりと準備していただき、市内児童生徒約27,000人に対して一人一台端末環境をほぼ整えつつあるという現状です。

GIGA スクールというと、最近の報道もあり「オンライン授業」というイメージがあるかもしれませんが、そればかりではなく、本来の目的は「子供たち一人一人に個別最適化した学びを保証し、資質・能力を一層確実に身に付けさせる授業を実現すること」にあります。

長崎市の取組としては、

- (1) 学習者用コンピュータの一人一台整備
- (2) 大容量情報通信ネットワーク環境整備
- (3) ICT支援のための人材配置

の3点に集約され、準備は順調に進んでいます。

ちなみに(2)の情報通信ネットワークの整備について補足をすると、導入する端末の使い方としては、端末自体にアプリをインストールしたりデータを記録したりするのではなく、すべてがクラウド上にアクセスすることが前提となっているために、全校児童が一度にネットワークに接続しても大丈夫な環境を実現するための整備となります。

学校としても、活用についてさらに研究を重ね、子供たちのよりよい学びにつなげていくよう努力してまいります。何かお尋ねになりたいこと等ありましたら、お気軽にお尋ねください。

ちなみに具体的にどんな学びの姿になっていくのか興味のある方は YouTube の文部科学省チャンネルに「学校における1人1台端末環境」公式プロモーション動画がありますので、ご覧になられてください。

こんな話を書いていたら、12月9日付けの長崎新聞に2019年国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)の記事が載りました。その記事の最後にはこのような文章がありました。

今回調査からコンピュータを利用した調査形式が採用されたが、日本は情報通信技術(ICT)が整っていないことなどを理由に従来通りの紙形式で実施した。

今後は学力テスト等も端末を活用して行う時代が到来しそうです。